

65cmクーデ型太陽望遠鏡

日本光学(日本)
1968年



太陽観測専用の望遠鏡。クーデ型の太陽望遠鏡としては口径が世界第1位である。

焦点距離37.2mのクーデ焦点で、太陽が直径35cmのスケールで結像する。1966年建設開始、1967年に望遠鏡の据え付けが行われた。総工費1億5千万円(建物を含む)。

太陽専用のため、赤緯+35°以北は向かない。

大型分光器を備え、太陽面の微細なスペクトル線輪郭の変化を観測できる。

近年はマグネトグラフにより、主に太陽面の磁場構造とその活動の研究に用いられてきたが、太陽の地上観測の減少に伴い、ここ数年は共同利用から外されている。

光学系

望遠鏡	クーデ	
主鏡	有効径[m]	0.65
	材質	熔融水晶
	焦点距離[m]	6.0 (F/9)
	形状	放物面
	厚み[m]	0.102
焦点	重量[kg]	80.5
	種類	クーデ
	焦点距離[m]	37.2
	口径比	57
	焦点面スケール[/mm]	5.55

機械系

マウント	方式	フォーク式
	重量[t]	16.7
赤緯北向き限界	35°	
指向精度	±30	

前光学系

リオフィルター	口径[mm]	30
	焦点の変化量[mm]	52
	H の透過幅[]	0.5
イメージ	口径[mm]	50
ローテーター	焦点の変化量[mm]	90

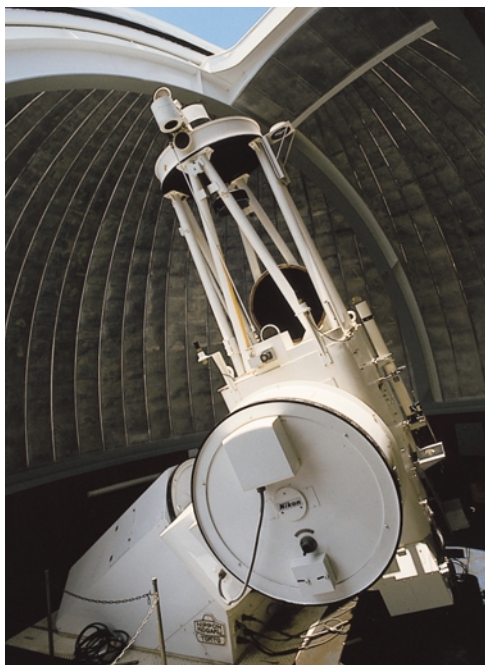


図2 - 6
65cmクーデ型太陽望遠鏡